

## 日本発ドイツ便り：道を聞く

初めて行った観光地で、道が分からなくなったり、迷子になった時どうしますか？

私のこれまでの観察経験から言うと、海外で道端なんかで一生懸命ガイドブックの地図を見ながら、何とか自分で解決しようとしているのって、100%日本人です。じゃあみんなどうしてるの？というのが素朴な疑問なんですけど、「その辺にいる、分っていそうな人に聞く」もしくはお店の人などに聞く。要は「(現地の人っぽい) 誰かに聞く」という解決法を取るのが圧倒的。

「でも言葉が」と思われる方もいるかもしれませんが、ボディランゲージという手段もあるし、地図を見せて現在地を確認してもらっても良いし、「まっすぐ」「右」「左」くらいの片言の英語が分れば十分。対面であれば思っている以上に意思の疎通は容易です。心配なら小さいノートとペンを持ち歩いてメモしてもらっても良いし、複雑そうな場合は、とにかく今どっちに進むのか分かれれば、またその先で違う人に聞けば良いのです。

ここで邪魔になるのが日本のガイドブック。なぜか地図上の通りの名前や観光名所までカタカナとかに翻訳されているものあって、現地の人に見せてもさっぱり分りませんし、自分で通りの名前と標識と突き合わせして確認しようと思っても、同じ場所なのかどうか分からなかったりします。Dom (ドーム: 大聖堂) に行きたいのに、「大聖堂」って言うてももちろん通じないし、Kaiserstrasse を「カイザー大通り」と訳された地図を見せても、残念ながら誰も分らないです。

ホテルや観光案内所で、市内地図は無料でもらえるので、外歩きの際に持ち歩くのは現地語の地図をお勧めします。というか地図はあくまでもお守り程度。そもそも安全上の理由からも、外で地図を広げるのはあまりお勧めしません。親切心から声をかけてくれる人もいますが、助けるように見せかけて、悪意を持って近づいてくる人もいますので、気を付けたほうが良いのです。要は、聞いた方が早いです。でも、どうしても地図を確認したければカフェなどでお茶でもしながら、次の行き先を確認すれば良いと思います。

道を聞いたときの反応も結構お国柄？が出ていて、

ドイツとかオーストリアだったら、けっこう細かく正確で、(この道をまっすぐ50メートル行くと右手側の角に本屋があるので、そこを右折…てな感じ) ちゃんとどこまで説明を理解したか確認まで求められます。「こいつ分ってなさそう」と思ったら、途中まで連れて行ってってくれる親切な人までいますし、なんとなく視線を感じて振り向くと、道を教えてくれた人が、角を曲がるまで後ろから見届けていたり…。道を聞かれたら「間違いなく目的地に送り届ける」を使命としているみたいです。

イタリアだったら、見ているだけで目的地に到着できるんじゃないか？と思うような大きな身振り手振りを交えながら教えてくれると思います。ただ、分らなくても、分らんなりに教えてくれる親切な人もいます(悪意はないです)ので、ちょっと要注意かもしれません。(このあたり、大阪と通じるところがあるのが面白いです。大阪で道を聞かれたら、知らなくても、どうでもいい情報でも伝えるのが礼儀です。☺)

あと、海外で道を聞かれた経験ないですか？

私はドイツ語圏では結構道を聞かれます。

初めて聞かれたときは確かに、「どう見ても外国人の私に何で？」と驚きました。

でも考えてみてください「外国人」って誰のこと??この考え方が私たちと全く違うんです。



ドイツ全体の外国人率が10%程度。  
外国人の割合が一番高い都市がフランクフルトで約30%!

(そうです。我が第4の故郷 Frankfurt は、大都市ではないですが、ドイツで唯一高層ビルが立ち並ぶ国際都市なんですよ!)

オーストリアで一番割合が高いのが、ウィーンで23%程度だそうです。

この割合は高い?  
それとも意外に低いと思いませんか?

ちなみに日本全体で見た外国人率は2%。

(各数値は統計をとった年度が異なると思うので、あくまでも目安としてください)

まあ日本国内で、どうみても外国人に見える人にわざわざ道を聞く人はいないと思いますが、例えばドイツで、外見だけでドイツ人、スイス人、オランダ人、チェコ人、イタリア人、フィンランド人などなどの区別が付きませんか?というか、区別する必要がありますか?

というわけで、「外国人かどうか?」の判断はあまり意味がありません。でも、ちょっと道行く人を観察したら(立ち居振る舞いから)観光客ではなさそうな人を見分けるのは、そんなに難しいことではないです。だから「分っていそうな人に道を聞いてみる」「聞いた人が知らなければ、別の人に聞く」これが正解です。多分、ドイツ語圏にいる時は、私もなんとなく「地元の人(?)」っぽく見えるんですかね?

ちなみに私、道を聞かれたら、知っている場合は「ドイツ式」に使命を持って答えています。

(あんまり知らない場合は多少の「大阪式」要素を織り交ぜつつ◎)

困ったときはまずガイドブックと格闘するのではなく、何でも誰かに聞いてみるものです。

傍から見て「困ってそうだな」と思っても、わざわざ声を掛けてくるケースはあまりないので、助けは待たずに自分から求めてみてください。恥ずかしがる必要は全くないです。親切な人が多くて、びっくりするかもしれません。

(この「助けは自分から求める」の法則は道を聞くだけじゃなくて、例えばすごく重い荷物を持って段差のある電車に乗り込まねばならない!というような場合にも有効です。)

重たいガイドブックはホテルに置いて、身軽になって、移動中の効率もアップ。

そして、現地でのちょっとした交流が、旅行中の楽しい思い出の一つになるかもしれません。

助けてもらったら、もちろんお礼の言葉は忘れずに◎

「道を聞く」のススメでした。